



花だより 鳥だより



ポロト案内舎 2020年 10月 106号

北海道の各地から、雪の便りが聞かれるようになりました。雪虫が飛び、オオハクチョウやオオワシが渡ってきました。そして、いつの間にか、アオジやノビタキの姿が見られなくなりました。季節の変化を実感する10月です。



ポロトのタンチョウ



今年、縄張りの主が変わったためか、移動時期なのに、ほぼ毎日のように見られました。繁殖できなかつたので、のんびりと過ごしているようです。水位が下がると、沼の真ん中で食べ物を探します。ある時、2羽で連れ立って飛び立ち、いきなり岸辺のオジロワシを襲いました。ワシが食べていたサケを横取りするためです。優雅なその姿に似合わず、なかなか大胆な鳥です。



クマ 動く



冬眠前のクマのニュースが、各地で報じられた10月でした。そのほとんどは本州に暮らすツキノワグマですが、北海道でもヒグマが人の生活圏のすぐそばで暮らしています。およそ10年ぶりに、案内舎の建物内からヒグマを見ました。それも2回です。前は春。秋は初めてです。

上の写真のヒグマは、早朝、湿原の奥をゆっくりと歩いて森に消えました。食べ物や冬眠の場所を探して移動中のクマだと思われます。春とは逆方向に移動していたのが印象的でした。ポロトの湿原は、ヒグマの先祖代々続く移動通路になっているようです。



下の写真は、ポロト沼の岸辺に現れたヒグマです。こちらはサケを狙って来たようです。しかも真昼間に、人目に付く水辺を歩き回り、近くのサケ番屋を気にする風でもありません。このクマは人を怖がる様子がなく、問題行動を起こす可能性を感じたので、しばらく用心していました。ゴミの管理をしっかりと行い、クマを誘引しないことが肝心です。



今年も決まりました



冬を代表する鳥のオオハクチョウとオオワシが来ました。

オオハクチョウは14日に、オオワシは翌日の15日に姿を見せました。

しかし、オオワシはその後ぷつりと現れず、あれは目の錯覚か？見間違いか？と、自信が無くなっていたころ、岸辺でサケを食べ

る姿を写真に収めることができました。

オオハクチョウは、何度も案内舎の上空を通過するのですが、早朝や夕暮れ時のことが多く、写真に撮ることができずにいます。



戦士の楽屋



夕方や早朝、案内舎の周りの森や湿原からオスジカの咆哮が聞こえてきます。黒々とした巨体と研ぎ澄まされた角を持つ凛々しいオスが、庭に現れることもあります。今まさにシカたちは恋の季節。逞しい体と気迫で、他のオスを退け、多くのメスを獲



得し、子孫を残そうと日夜努力を続けている最中です。

戦うオスたちの楽屋ともいえるべき場所が、案内舎の敷地にあります。地面には草がはぎ取られた窪地が散見され、木には角を研いだ跡が残っています。黒々とした地面には、オスジカが膝を折って首や胸に土をこすりつけた後が生々しく残されています。黒い体は土の色なのです。戦いの前にせつせと準備を整えるオスたちです。



冬を前に



紅葉が終わると、冬が駆け足で来ます。寒さが厳しくなる前に、野外でやるべき仕事がたくさんあります

そのひとつが薪の準備。ミズナラの丸太を100本購入し、ストーブに入る長さに切りました。その後、斧で割り、1、2年乾かすと完成です。このミズナラは来年の冬に使います。薪割は寒さが厳しくなってからでも大丈夫ですが、切るのは暖かいうちに済ませたい。薪割は木が凍るとやりやすくなります。それに体が温まりますし、冬場の運動不足解消に最適です。



さらにやるべきことが、長年の懸案だった五右衛門風呂とサウナをつなぐデッキの改修。土台が腐ったので、板を取り換えるだけではすまなくなっていました。17年経つのもう限界です。新たに作り替えました。秋の日差しを浴び、楽しい作業になりました。